

<「知るっば!久留米」 令和2年4月9日(木) 12:30~放送分>

ドイツさんと久留米 ～第2回～ ドイツさんがやってきた

<ゲスト： 市文化財保護課 主査 小澤太郎さん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば!久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。4月はドイツさんと久留米をテーマにお送りしています。

今回も久留米市文化財保護課の小澤さんにお伺いします。テーマは「ドイツさんがやってきた」です。そもそも、何で久留米にドイツさんがやってきたんですか？

ゲスト:小澤さん (以下「小澤」)

まず、この問題に触れないと話が始まらないですね。

ちょうど100年前に第1次世界大戦が起こって、日本はその当時、イギリスと同盟を結んでいたんです。それで、イギリスの要請に従ってドイツ軍がいた中国の青島(チンタオ)に軍隊を出すことになったんです。その時の軍隊っていうのが、久留米の第18師団を中心に編制したんですね。

坂本 その第1次世界大戦で久留米にはどんな影響があったんでしょう？

小澤 第1次世界大戦は、実は日本の軍隊で係わったのがほとんど久留米の部隊だけと言ってもいいくらいなんです。だから、人によっては久留米の戦争だったって言う人もいます。

その第1次世界大戦で、久留米の部隊が中心となって戦って勝ったんですよ。それで、久留米の部隊が捕まえたドイツ人捕虜がたくさんいて、その人たちを収容しなくてはならないということになったんですね。

坂本 青島(チンタオ)で大きな戦いがあったって、そこで日本が勝利した。そして、相手の軍隊の兵隊さんたちを捕虜として連れて帰ったということですね。そして、その捕虜たちを久留米に収容したということですね。

なんで久留米だったんでしょう？

小澤 久留米の部隊が中心となっているということが一つの大きい要因です。

また、久留米は青島(チンタオ)に地理的に近いですね。久留米から門司港まで列車で行って、そこから船で中国に渡るんですけど、久留米は近いところにある。それと久留米は軍都なので、軍隊があるってことで監視が利くだろうというところがあったと思うんですね。

坂本 でも初めから収容所があったわけじゃないでしょ?作ったんですか？

小澤 これはですね、青島（チンタオ）の戦いで日本の兵士に負傷する人が出るだろうという想定を当然してますよね？その人たちの病気やケガを治したりする施設として病舎を作ってたんですよ。

坂本 そういう病院というか病舎があったんですね？

小澤 当初は第1次世界大戦がこんなに長引くと思ってなかったので、捕虜はお寺とか料亭とかに分散してたんです。けれども、捕虜がどんどん増えてくると一箇所で収容したいとなりました。そういうことで、捕虜を病舎に集めたわけです。

坂本 最初はお寺とか料亭が臨時の収容所だったんですね。それだと、捕虜の人は畳の上に寝てたんですね。

小澤 お寺も料亭も立派な建物ですよ。その頃はみんな少人数なので自由にできたみたいですね。

坂本 その人たちをまた収容所に送って一箇所に集めたんですね？

小澤 どんどん捕虜が増えてくるからですね。

坂本 捕虜はいっぺんに来たわけではなく、何回かに分けて来たんですね？

小澤 はい、病舎に捕虜が全員集合しちゃうわけです。

坂本 ドイツさん、つまり捕虜の方が久留米に来ることになって、久留米の人たちもそれを受け入れた。お互いの関係はどんなだったのですか？

小澤 ドイツさん達の日記を見てみると、ドイツさん達にとっても久留米の人達が初めて触れる日本人だったみたいなんですよ。列車で久留米の収容所に来る時に、最初に降りたのが久留米駅なんですよ。列車から降りる時も黒山の人だかりというか、みんながドイツさんを見に来ているんですよ。外国人が珍しいから。

ドイツさんの日記には、「まるで国賓を迎えるかのごとく群衆が集まっている。しかも、自分たちのために道を開けている。そして、自分たちが行進を始めると子供たちがずっとなついてくる。その子供たちの眼は、キラキラして好奇心いっぱいだ。」と書いてありました。

また、久留米に着いたのが夜だったんで、「点いていた明かりが幻想的だった」とも言ってるんですね。

坂本 通りに透けて見えた家の明かりが幻想的だったということですね。日本の家は木と紙でできていたわけですからね。

小澤 そうですね。そこにまず目がいったみたいですね。あと小さい子供たち。

坂本 そういう久留米の人たちは、新しい人たちを受け入れる土壌というか、気分みたいなのがあったんですかね？

小澤 好奇心いっぱいだったんでしょうね。子供たちがずっと寄ってくるって話が日記によく出てきます。

坂本 怖いとかいうことではないんですね？むしろ歓迎していたんですかね？

小澤 日本軍からも「ドイツ人は捕虜になったといっても、一生懸命戦った上で捕虜になったのだから、ちゃんとそれなりの対応をなさい」という通達が出てたんです。

それに、日本人としてもドイツは当時、工業国で近代国家の大先輩なんです。だから、技術を持ってるとか、ドイツ人の気質ですね。そういうところを尊敬していたんですね。

坂本 進んだ国の人みたいな感じだったのかな？

小澤 当時は、お医者さんも軍人さんもみんなドイツ留学してますからね。だから、ドイツの方が進んだ国だってみんな知ってたんですよ。

坂本 そんなドイツさんと久留米の人たちの暮らしについて、まだまだお話がたくさんあると思いますのでシリーズは続きます。小沢さん、よろしくお願いします。

今日ご紹介した情報は、久留米市の公式ホームページ内の「ドイツさんと久留米」でもご覧いただけます。また、久留米市ではドイツさんの足跡が残るアサヒシューズ、ブリヂストン、ムーンスターのゴム3社と共同でドイツさんの功績を見学者の皆さんなどに発信しています。

今回は、「ドイツさんの生活」をテーマにお届けします。お楽しみに。